

社高教育課程実践モデル事業通信

5号 2018.2.22

学習評価（ルーブリック）研修会（2018.2.20 実施）



平成30年2月20日（火）
14時から、杉本憲子茨城大学
教育学部准教授をお招きして、
学習評価（ルーブリック）研修
会「授業改善と学習評価ー求め
られる「資質・能力」の育成と
授業・学習評価の在り方ー」を
開催しました。

この研修会で杉本先生がお話しになったことで、特に重要であると思われる事項を纏めておきます。

1. 学習評価は何のために実施するのか（学習評価の目的）。
 - (1) 授業を通して育成を目指した目標がどの程度到達されたかを把握し、授業改善に生かす。
 - (2) 生徒が自分の学びの成果やつまずきを把握し、学習の改善に生かす。
 - (3) この授業（単元）で「どのような資質・能力（＝コンピテンシー）を育てるのか」という「目標」を明確にすること。
2. 学力観・学習観（＝育てる「資質・能力」の捉え方の見直しが進められている→それをどう評価するのも見直される。
3. 単元のまとまりのなかでパフォーマンス課題を提示し、それを評価するための基準（ルーブリック）を作る。
←「活用」の前に「習得」あり。
4. 評価基準は多くの教員で議論して作成し、生徒の実態により変更する。
5. 評価のための評価にならないこと。

（岩町 暁）